



畑をよく見て「たまねぎ減農薬」 ～白斑葉枯病の簡便な観察法～

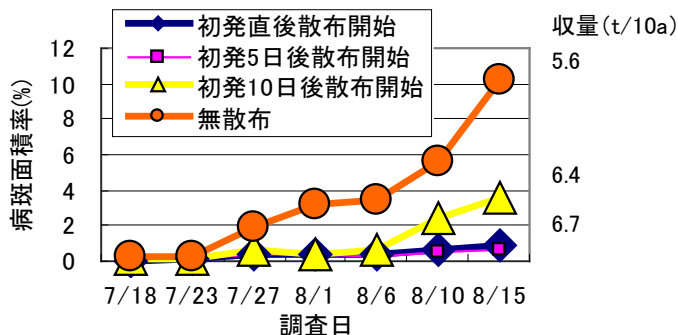
1. 白斑葉枯病とは？



たまねぎが減収する重大な病気で、葉に白い小斑点ができます。はじめは病斑1個でも、雨による多湿で、急激に発病が進展します。

この病気を防ぐための防除回数を3～4回に減らす新技術を開発しました。

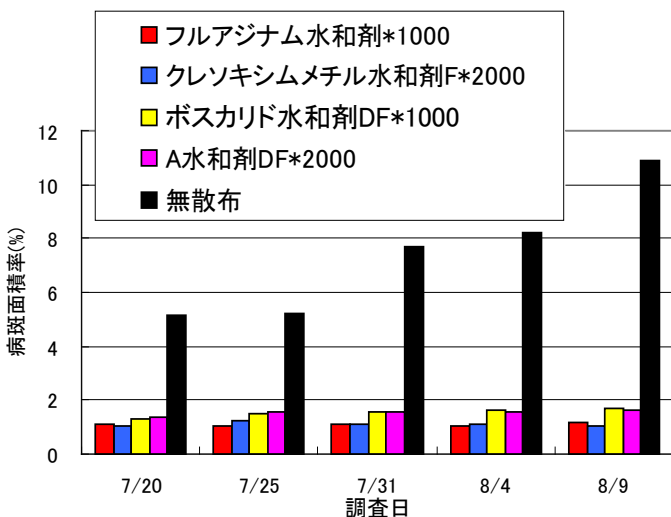
2. 散布開始時期は？



散布開始時期の違いによる発病推移 (2007年、北見農試)

病気が見つかったから農薬散布を始めます。

3. 散布間隔は？ 効果の高い薬剤は？



4薬剤の15日間隔3回散布による発病推移 (2006年、中央農試)

効果が長く持続する薬剤を使って、散布回数を減らします。

4. 簡便な観察による減農薬防除法

畑を見歩き病気を探す (生育の良い畦200株)

6月以降、2日以上連続降雨または10mm以上の降雨があったらその後7日間観察

1株でも病気を見つけたら、5日以内にフルアジナム水和剤1000倍を散布

15日間隔で2回め以降の散布 (同一薬剤を連用しない)

散布の終了は倒伏期の15日前 (各圃場・品種の平年を参考)



畑をよく見て「たまねぎ減農薬」

～ネギアザミウマの簡便な観察法～

Q1. ネギアザミウマって何ですか？

ネギアザミウマは様々な作物を吸汁加害して、収量や品質を落とす害虫です。たまねぎでは、収量が半分になることもあります。



たまねぎに寄生する
ネギアザミウマ
茶色：成虫
(体長：約1mm)
黄色：幼虫



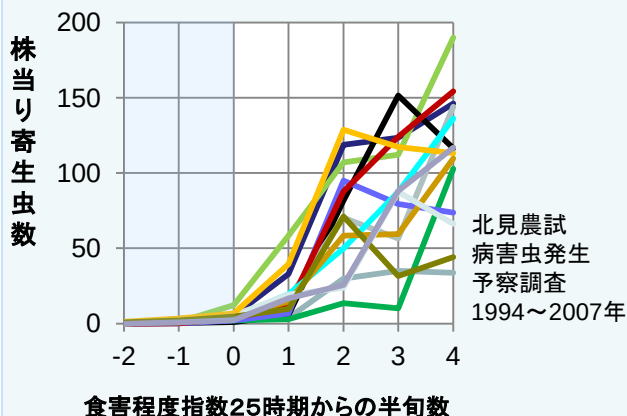
たまねぎの被害
左：防除区
右：無防除区

Q3. 被害程度指数とは何のこと？ それが25になるのはいつですか？

被害程度指数とは、ネギアザミウマによる被害状況を数値化したものです。被害程度指数25となるのは、写真の様な被害(被害程度1)がほとんどの株に見られる時期で、ネギアザミウマが増え始める直前です。



葉の拡大 株全体
被害程度1



Q2. 農薬を上手に使う方法は？

このフローチャートに従ってください

畑を見歩いて被害程度調査を実施

6月上旬から
5日毎

いいえ

被害程度指数が25になりましたか？(Q3 参照)
あるいは
被害程度指数は25にならないまま
7月10日を過ぎた？

はい、直ちに

薬剤散布を実施

(使用する薬剤はお近くの農業試験場または
農業改良普及センターまでお問い合わせください)

10日間隔
で
薬剤散布

いいえ

最後の薬剤散布は、7月20日以降ですか？

はい

今年の薬剤散布はおしまい！

Q4. この方法を使った結果は？

この表のとおり、薬剤使用回数削減ができ、
クリーン農産物の安定生産に役立ちます。

	散布 開始日	散布 間隔	使用 回数	収穫量 (kg/10a)
新方法	7月2日	10日間隔	3回	5,656
徹底防除	6月13日	10日間隔	7回	6,012
無防除	—	—	0回	4,397

(2007年、北見農試)

北海道立北見農試 生産研究部 病虫科

住 所：常呂郡訓子府町字弥生52

電話番号：0157-47-2146

e-mail：seika@agri.pref.hokkaido.jp